

# 北 鯨 会

## ニュースレター

No. 16



2019年11月  
(名古屋工業大学同窓会北海道支部)

## 1 同窓生情報

氏名（敬称略）（卒業年・学科記号、現在の居住地）で、卒業年順に記載されています。

### 宮入 紀行（F40、岩見沢市）

卒業後9年間マツダに勤務された後、家業を継ぐため、北海道岩見沢市に戻られました。健康上の理由で医師から飲酒を止められていますが、この会では久しぶりにお酒をたしなまれました（ごきそ 2019.1-2号より転載）。

### 高田 忠彦（Y41、江別市）

#### 「ローテク三昧 その4」

石油資源の無い日本に住みながら、安くて便利な石油文明を謳歌してきた我々ですが、そのことによって累積してきた負の遺産は深刻です。海洋にまで広がるプラスチック汚染と生態系にまで影響を及ぼしている実態、世界各地で頻発する異常気象とそれに伴う自然災害は、人類に対する地球からの痛切なメッセージです。

去る9月、スウェーデンの少女、ブレタさんは各国首脳に訴えました。「地球環境対策を怠ることは許さない」と。

どのような文明であれ、生態系を破壊し、自然と共生できなくなれば、淘汰されることになるのが自然の法則です。

技術のイノベーションによって、循環型の産業経済を構築することです。

言い換えますと、ローテクのハイテク化によるSDGsの実現です。

終活を迎え、こんなアホナことを思い巡らしながら、北海道のローカルな自然素材を活用する「老テク」に励んでいます。

### 三田村好矩（F41、札幌市）

#### 「パリの大学のトイレ事情」

今年（2019年）7月に約40年ぶりにパリを訪れた。40年ぶりのため覚えていたのは、ルーブル美術館に行ったこと、モナ・リザの絵が小さかったこと、印象派美術館で多くの印象派の絵を見たこと、夜ムーランリュージュへ行ったことで、ほとんど初めて行ったのと同じであった。

シャルルドゴール空港に着くと、世界各地から到着する飛行機が重なったためか、入国手続きのために長蛇の列ができていた。高齢のためか列の途中でトイレに行く羽目になった。空港のトイレは日本と変わらず、男子トイレには立って用を足す便器と座って用を足す便器があった。

会議はソルボン大学で行われた。ソルボン大学はキューリー夫人がノーベル賞を取った研究を行った大学で、フランス有数の大学である。会議のコーヒープレイクでトイレに行ったとき驚いた。男性用のトイレの外に列ができていのに、女性用トイレの外には列ができていないのである。日本でもコンサート会場や野球場などで女子トイレ前に長蛇の列ができるのに、男子トイレは列ができない光景をよく見かける。ソルボン大学では全く逆である。不思議に思ったが、男子トイレに入ってその理由が分かった。驚いたことに男子トイレに立って用を足す便器がなく、すべて個室で座って用を足す便器のみであった。女性トイレを見る機会はなかったが、たぶん男子トイレと同じ構造と思われる。すなわち男性、女性でトイレの構造に差がないのである。このため会議に出席しているのは男子が女性に比べて多かったため、このような光景になったのであった。

最近日本でも一部の女子大学で生物学的には男性であるが、心の性は女性と認識している学生（性同一性障害者）の入学を受け入れることが始まっている。また世界的にLGBT、性的少数者の権利を尊重する運動が広がっている。パリの大学ではトイレにも性差をつけないことが始まったのかと驚いた次第である。



写真1 ソルボンヌ大学



写真2 ソルボンヌ大学

#### **山平 英夫 (C43、札幌市)**

今年は大学卒業50周年に当たり、浜名湖館山寺温泉で開かれたクラス会に出席されました。クラス会ではお互いの健康問題が話題になりました（ごきそ 2019. 1-2号より転載）。

#### **浅井 信和 (D45、更別村)**

北海道に移住して14年が経とうとしています。冬季にはまだまだ若い気でスキーをしていますが、十勝の冬は寒すぎるので春めいてからちょこちょこっと滑って自己満足しています。妻は「怪我しそうで不安」と言ってもう滑ろうとしません。妻とは工業化学科4年の時の1969年12月に科の仲間と長野県の梅池高原へスキーに行った時に知り合ったのがなれそめなので今冬で50年になります。やはり半世紀の歳月は無常のようです。

#### **及川 善史 (M47、札幌市)**

現在建設機械レンタルの企業に週2回勤務しておられます。ゴルフは今年8回プレイし、80台のスコアをだされました。2年に1度開かれているクラス会が今年は横浜で開かれ、17人が出席しました。3人のお子様は仙台、京都、土岐に住んでおられます（ごきそ 2019. 1-2号号より転載）。

#### **田上 利明 (C47、旭川市)**

現在測量会社の会長をしておられます。健康増進を目的にゴルフを楽しんでおられます。今年はずでに134回プレイされました（雪で半年プレイできない北海道では、驚異的な回数です）（ごきそ 2019. 1-2号より転載）。

### **赤澤 稔彦 (Y53、苫小牧市)**

今年3月で長年勤めた会社も退職し、現在は週2、3回のトレーニングジムと週1回のテニススクール通い、それと知人から頼まれ無報酬の麻雀教室の講師を月2回等々。

他に町内会活動、ボランティア活動、横浜から近所に転勤してきた長男の子供の相手が多忙な毎日です。

### **佐川 正人 (C53、札幌市)**

大学時代はワンゲル部に所属されておられ、現在も奥様と一緒に登山を楽しんでおられます。また自転車ツーリングも楽しんでおられます。現在 ISO 認証に関する会社に勤務しておられます（ごきそ 2019. 1-2 号より転載）。

### **浅野 一郎 (C54、札幌市)**

早いもので札幌に赴任し8月で7年目を迎えています。寒さにも慣れ快適な单身生活を送っています。あと1、2年は居られると思われまので北海道の良さを十分に確認していきたいと思っています。

今回の総会は所用で欠席いたしますが、10月26日のホームカミングデイは卒業40年になりますので初めて参加してきます。機会がありましたらご報告させていただきます

皆様のご健康ご多幸をお祈りいたします。

### **芝山 和雄 (W59、北見市)**

いつも乳製品をご愛用頂きありがとうございます。

40歳の時に自衛官（陸上自衛隊）の制服を酪農家のつなぎ服に代えて20年が経ちました。この間、お上の推奨する介護型酪農から、放牧酪農に切り替えて、現在はマイペースで楽農を営んでいます。

全道で酪農戸数は6,000戸ほどありますが、放牧を営んでいる酪農家は7%程度といわれています。全国的には4%程度で、大半は牛舎内での介護型酪農です。

放牧により、牛はたいへん健康で長生きし、生産される牛乳は甘みがほんのりとして、舌触りがまるやかでミネラル豊富です。飼料の大半が自給飼料のため、生産コストを低く抑えられるので、所得率は50%を超える酪農家もいます。

かつての牛舎内介護型では、長時間労働（3500時間/年以上）でありながら所得率は数%から20%未満でしたので、現在はマイペース楽農となりました。この放牧酪農は、「足るを知る」即ち自然がもたらしてくれた恵みを、最大限活用する心をいかに持ち合わせるか、が成否の分かれ道のようなようです。

営農していると規模拡大することが生産性を増すように錯覚してしまい、余計な経費をかけて、貴重な時間をさらにかけてしまいがちになりましたが、その負のスパイラルから抜け出せてよかったと思っています。

今後の課題は、若い世代に牧場を継承してもらえるよう、施設・設備の整備を進めていくことです。

皆様の周りで、農業に関心を示す若者がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。

今年も全国各地で、自然の猛威にさらされていますが、どうか皆様、くれぐれもご自愛いただいて、ご健勝にてお過ごしください。



写真3 芝山牧場 (Google map より)

### 山岡 千秋 (ZW3、岩見沢市)

#### 「岩見沢で陶芸体験」

1946年の創業以来、北海道の土や石などを原料にした焼き物作りに取り組む「こぶ志陶苑こぶ志窯」(岩見沢市5東13)で、陶芸体験ができる。ギャラリーに展示している作品を見てイメージをつかみ、600グラムの粘土を使って皿やマグカップなど好きな物を制作。3代目の山岡千秋さんが丁寧に教えてくれる。仕上がりの色を決める釉薬は2種類から選ぶ。作品は焼成して後日引き渡す。参加は3人から(団体は30人まで)。1人3000円。作品を郵送してもらう場合は別途送料がかかる。所要約2時間。営業は午前10時～午後6時(日曜と冬期は午前11時～午後4時)。水曜定休。1週間前(団体は2週間前)までに要予約。こぶ志窯 ☎0126・22・4303

(北海道新聞夕刊「情報らんど〜トライ」2019年9月20日(金)より)



写真4 陶芸体験

## 伊東 博之(ZW93、札幌市)

愛知県出身で北海道に来られて3年になりました。鉄鋼材料などを販売する企業（阪和興業）の北海道支店長をしておられます。今回の総会の最年少出席者で、当支部のホープです（ごきそ2019. 1-2号より転載）。

## 2 2019年度支部連絡会報告（2019年10月26日、名古屋工業大学開催）

### （1）名古屋工業会本部の移転及び工業会館の解体について

現在の工業会館は耐震強度が低いため、早急な対策が必要とされていた。会員の意見集約を行ったところ、工業会本部を大学構内に移転し、現在の工業会館を解体する方向性が示された。これに基づき工業会と大学が協議し、11月に工業会本部を大学構内の校友会館2階の卒業性連携室（211室西側）隣に移転することになった（211室東側）。なお、工業会館解体後の敷地は駐車場として貸し出す予定である。

### （2）財政について

二つの目標を達成するよう長期財政計画を検討している。一つは大学支援の継続である（2018年度は約2,500万円を大学へ寄付している）。もう一つは、入学時に終身会員となった学生へ卒業後サービス提供をするための留保金の確保である。

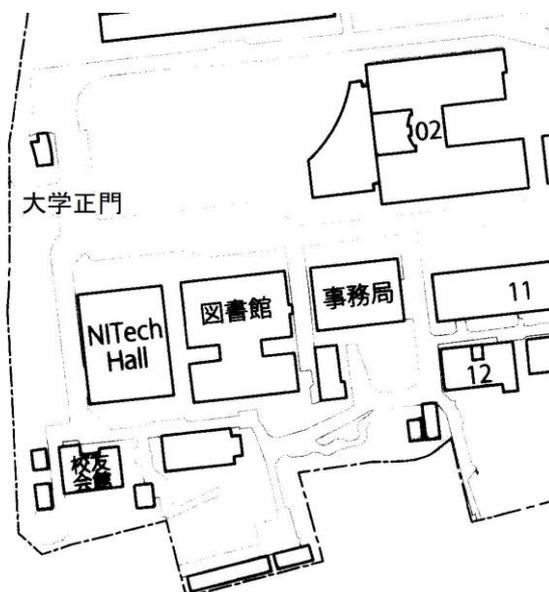


図1 校友会館

## 3 新入会員（敬称略）

田中 義克（M、札幌市） 北海道総合研究プラザ  
北條 康夫（M56、苫小牧市） トヨタ自動車北海道株式会社